

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	生命工学の応用・発展に寄与する自然科学・工学の基礎知識と倫理観を身につける。
観点(B)	現存する諸問題の解決に役立つ技術開発を、生命工学分野からのアプローチで行うための、最先端の専門知識・技術を修得する。
観点(C)	研究開発から経済的価値の創出・実用化までのプロセスを立案・実行するための、知識を修得する。
観点(D)	説得力のあるプレゼンテーション、的確なコミュニケーションを行うための能力を身につける。また、これらを国際的な場で行うための語学力を身につける。

博士前期（修士）課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
生物機能工学特論	○	○		
生物情報工学特論	○	○		
生体物性学特論	○	○		
細胞分子工学特論	○	○		
生体反応工学特論	○	○		
植物機能工学特論	○	○		
蛋白質化学特論	○	○		
生体機能工学特別講義		○	○	
生物化学特論	○	○		
生物物理化学特論	○	○		
生物有機化学特論	○	○		
細胞解析特論	○	○		
応用生物学特別講義		○	○	
ゲノム情報解析工学特論	○	○	○	
ゲノム情報利用工学特論	○	○	○	
生命工学倫理特別講義		○		
生命工学ビジネス特別講義			○	
生命工学英語特論Ⅰ				○
生命工学英語特論Ⅱ				○
生体機能工学プレゼンテーション特論Ⅰ				○
生体機能工学プレゼンテーション特論Ⅱ				○
応用生物学プレゼンテーション特論Ⅰ				○
応用生物学プレゼンテーション特論Ⅱ				○
生命工学先端研究			○	
生命工学セミナーⅠ	○			○
生命工学セミナーⅡ	○			○
生命工学セミナーⅢ	○			○
生命工学セミナーⅣ	○			○
生命工学特別研究		○		
生命工学教育研究特論Ⅰ			○	○
生命工学教育研究特論Ⅱ			○	○
科学特論Ⅰ				○
科学特論Ⅰ				○
科学特論Ⅰ				○
科学特論Ⅱ				○
科学特論Ⅱ				○
科学特論Ⅱ				○
科学特論Ⅲ				○
科学特論Ⅲ				○
科学特論Ⅲ				○
科学特論Ⅳ				○
科学特論Ⅳ				○
科学特論Ⅳ				○
技術マネージメント特論Ⅰ		○	○	
技術革新論			○	
短期インターンシップ			○	
インターンシップⅠ			○	
学内インターンシップⅠ			○	
生命工学フロンティア特論Ⅰ		○	○	
生命工学フロンティア特論Ⅱ		○	○	
生命工学フロンティア特論Ⅲ		○	○	

博士後期課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
生体分子機能特論	○	○		
バイオインフォマティクス特論	○	○		
生体分子構造特論	○	○		
植物工学特論	○	○		
生命反応特論	○	○		
生体情報伝達特論	○	○		
生命分子設計特論	○	○	○	
先端生体機能工学特別講義		○		
分子生物学特論	○	○		
バイオマテリアル特論	○	○		
生命分子反応特論	○	○		
先端生体解析特論	○	○		
先端応用生物学特別講義		○	○	
先端ゲノム情報解析工学特論	○			
先端ゲノム情報利用工学特論	○			
生命工学社会学特別講義		○		
生命工学産業特別講義			○	
バイオビジネス特論			○	
先端生命工学英語特論Ⅰ				○
先端生命工学英語特論Ⅱ				○
生命工学英語ライティングⅠ				○
生命工学英語ライティングⅡ				○
生命工学英語ライティングⅢ				○
ブレインストーミング・イン・イングリッシュ				○
生体機能工学先端研究プレゼンテーション特論Ⅰ				○
生体機能工学先端研究プレゼンテーション特論Ⅱ				○
応用生物学先端研究プレゼンテーション特論Ⅰ				○
応用生物学先端研究プレゼンテーション特論Ⅱ				○
生命工学特別セミナー特論Ⅰ	○			○
生命工学特別セミナー特論Ⅱ	○			○
生命工学特別セミナー特論Ⅲ	○			○
生命工学先端計画研究	○			○
生体機能工学実地研修研究特論		○	○	
応用生物学実地研修研究特論		○	○	
科学特論Ⅴ		○		
科学特論Ⅵ		○		
科学特論Ⅶ		○		
科学特論Ⅷ		○		
技術マネージメント特論Ⅱ		○	○	
工学府特別講義			○	○
工学府特別講義			○	○
工学府特別講義			○	○
工学府特別講義（国際コミュニケーションⅠ）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーションⅡ）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーションⅢ）				○
インターンシップⅡ			○	
学内インターンシップⅡ			○	
科学日本語特論			○	○
科学英語特論Ⅰ			○	○
科学英語特論Ⅱ			○	○
科学英語特論Ⅲ			○	○
グラントプロポーザル特論（イノベーション）			○	
海外研修教育（イノベーション）			○	
生命工学フロンティア特論Ⅳ		○	○	○
生命工学フロンティア特論Ⅴ		○	○	
生命工学フロンティア特論Ⅵ		○	○	

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	関連する分野での学部での基礎知識に基づいて、さらに高度で幅広い専門知識を習得し、その専門知識を土台として幅広い創造力、多様な課題に対する問題解決能力などを有し、研究者および技術者としての高い倫理性を持つこと。
観点(B)	化学を基盤とした新規性、創造性、応用的価値をもつ研究及び技術開発を主体的に進める能力を有すること。
観点(C)	持続可能な社会の実現に資するような先端技術の開発等において指導的な役割を担うことができる。
観点(D)	研究成果の論理的説明能力を養成するとともに、国際的な場で活躍ができるためのコミュニケーション力を身に付けて、国際性を持ったクリエイティブなリーダーとなりうること。

博士前期（修士）課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
有機反応化学特論	○			
無機反応化学特論	○			
応用有機合成特論	○			
応用無機合成特論	○			
電子化学特論	○			
応用触媒化学特論	○			
物質応用化学講座特別講義 I	○			
物質応用化学講座特別講義 II				○
有機材料設計特論 I	○			
有機材料合成特論 I	○			
有機材料構造特論 I	○			
有機材料物性特論 I	○			
有機材料解析特論 I	○			
有機材料開発講義 I	○			
有機材料化学講座特別講義 I	○			
有機材料化学講座特別講義 II			○	
分子化学工学特論 I	○			
分離工学特論 I	○			
分子情報工学特論 I	○			
化学プロセス工学特論 I	○			
化学エネルギー工学特論 I			○	
環境化学工学特論 I			○	
システム化学工学講座特別講義 I	○			
システム化学工学講座特別講義 II				○
物質生物計測特論 I	○			
物質生物計測特論 II			○	
物質生物計測講座特別講義 I	○			
物質生物計測講座特別講義 II			○	
科学特論 I				○
科学特論 I				○
科学特論 I				○
科学特論 II				○
科学特論 II				○
科学特論 II				○
科学特論 III				○
科学特論 III				○
科学特論 III				○
科学特論 IV				○
科学特論 IV				○
科学特論 IV				○
技術マネジメント特論 I			○	
技術革新論		○		
短期インターンシップ			○	
インターンシップ I			○	
学内インターンシップ I			○	
応用化学セミナー I		○		
応用化学セミナー II		○		
応用化学特別実験	○	○		
応用化学特別研究		●		○
フロンティア応用化学特論 I		○		
フロンティア応用化学特論 II				○
フロンティア応用化学特論 III				○

博士後期課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
物理有機化学特論	○			
薄膜合成化学特論	●			○
精密合成化学特論	○			
セラミック化学特論	○			
電子移動反応特論	○			
有機金属化学特論	○			
精密分子化学講座特別講義 I	○			
精密分子化学講座特別講義 II	○			
精密分子化学講座特別講義 III				○
有機材料設計特論 II	○			
有機材料合成特論 II	○			
有機材料構造特論 II	○			
有機材料物性特論 II	○			
有機材料解析特論 II	○			
有機材料開発特論 II	○			
有機材料化学講座特別講義 III	○			
有機材料化学講座特別講義 IV	○			
有機材料化学講座特別講義 V			●	○
分子化学工学特論 II	○			
分離工学特論 II	○			
分子情報工学特論 II	○			
化学プロセス工学特論 II	○			
化学エネルギー工学特論 II			●	○
環境化学工学特論 II			●	○
化学プロジェクト&プログラムマネジメント	●	○		
システム化学工学講座特別講義 III	○			
システム化学工学講座特別講義 IV			●	○
システム化学工学講座特別講義 V			●	○
物質生物計測特論 III			●	○
物質生物計測講座特別講義 III	○			
物質生物計測講座特別講義 IV	○			
物質生物計測講座特別講義 V			○	
科学特論 V				○
科学特論 VI				○
科学特論 VII				○
科学特論 VIII				○
技術マネジメント特論 II	○			
工学府特別講義				
工学府特別講義				
工学府特別講義				
工学府特別講義（国際コミュニケーション I）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーション II）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーション III）				○
研究マネジメント特論		○		
インターンシップ II			○	
学内インターンシップ II			○	
科学日本語特論				○
科学英語特論 I				○
科学英語特論 II				○
科学英語特論 III				○
グラントプロポーザル特論				○
海外研修教育				○
応用化学特別講義 I				
応用化学特別講義 II				
応用化学セミナー III		○		
応用化学セミナー IV		○		
応用化学セミナー V		○		
特別計画研究		○		
特別教育研修		○	○	
フロンティア応用化学特論 IV				
フロンティア応用化学特論 V		●	○	
フロンティア応用化学特論 VI		○		

●と○がある場合は、●が主たる関与であることを示す

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	数学・物理学を中心とした自然科学の基盤的学力の上に、工学系専攻の修士に相応しい深い探究心とより高い解析能力とを裏付けとして先端的研究に携わることができる学問的応用能力を身につける。
観点(B)	機械工学の各分野に関する専門的知識をより深めるとともに、多様性に富む学際分野の融合的な研究課題にも対応できる柔軟な思考力を身につける。
観点(C)	機械工学の各専門分野において、自ら開発目標を発見し、実験・解析のルーティンを見直し、考察・議論を展開できるような知的な好奇心と洞察力を身につける。機械工学およびその基盤となる理工学に関して最先端技術の開発・発明あるいは画期的な新知見をもたらす研究内容を備えた学位論文を作成する。
観点(D)	学会等の場で研究成果を発表し、質疑応答を的確に行えるコミュニケーション能力を身につける。さらに、研究成果を国際的に発信するために必要な語学能力および共生科学技術の多様化を担える適応能力を身につけ、社会的責任や倫理に関する理解を深める。

博士前期（修士）課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
物理学特別演習	○			
数学特別演習	○			
流体力学特論 I	○	○		
熱流体システム設計特論	○	○		
材料力学特論	○	○		
弾塑性解析特論	○	○		
制御システム特論	○	○		
精密計測工学特論	○	○		
気体力学特論	○	○		
機械要素解析特論	○	○		
機械材料学特論	○	○		
多体系動力学特論	○	○		
シミュレーション工学特論	○	○		
機械電子工学特論	○	○		
システム基礎解析講座特別講義 I		○		○
システム基礎解析講座特別講義 II		○		○
設計生産システム講座特別講義 I		○		○
設計生産システム講座特別講義 II		○		○
機械知能システム工学講座特別講義 I	○	○		
実践機械システム工学 I			○	○
実践機械システム工学 II				○
実践機械システム工学 III		○		
実践機械システム工学 IV		○		
科学特論 I				○
科学特論 I				○
科学特論 I				○
科学特論 II				○
科学特論 II				○
科学特論 II				○
科学特論 III				○
科学特論 III				○
科学特論 III				○
科学特論 IV				○
科学特論 IV				○
科学特論 IV				○
技術マネジメント特論 I		○		○
技術革新論		○		○
短期インターンシップ			○	
インターンシップ I			○	
学内インターンシップ I			○	
機械システム工学特論		○		○
機械システム工学セミナー I			○	
機械システム工学セミナー II			○	
機械システム工学特別実験			○	
機械システム工学特別研究			○	
フロンティア機械システム特論 I		○		○
フロンティア機械システム特論 II		○		○
フロンティア機械システム特論 III		○		○
機械システム工学実習		○		○

博士後期課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
流体力学特論 II	○	○		
エネルギー・物質伝達特論	○	○		
高強度材料解析特論	○	○		
非弾性解析学特論	○	○		
固体の変形解析特論	○	○		
トライボロジ解析特論	○	○		
機械物理工学講座特別講義 I		○		○
機械物理工学講座特別講義 II		○		○
機械物理工学講座特別講義 III		○		○
機械システム制御設計特論	○	○		
熱伝達システム特論	○	○		
ビークルダイナミクス特論	○	○		
マイクロマシン特論	○	○		
メカトロニクス特論	○	○		
生産加工特論	○	○		
知能ロボット工学特論	○	○		
マイクロ加工工学特論	○	○		
超精密技術特論	○	○		
精密加工学特論	○	○		
BioMEMS特論	○	○		
システム設計工学講座特別講義 I		○		○
システム設計工学講座特別講義 II		○		○
システム設計工学講座特別講義 III		○		○
宇宙推進工学特論	○	○		
機械知能システム工学講座特別講義 II		○		○
科学特論 V				○
科学特論 VI				○
科学特論 VII				○
科学特論 VII				○
技術マネジメント特論 II				○
工学府特別講義				○
工学府特別講義（国際コミュニケーション I）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーション II）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーション III）				○
研究マネジメント特論		○		
インターンシップ II			○	
学内インターンシップ II			○	
機械システム工学特別講義 I		○		○
機械システム工学特別講義 II		○		○
機械システム工学特別セミナー I			○	
機械システム工学特別セミナー II			○	
機械システム工学特別セミナー III			○	
特別計画研究			○	
特別教育研修		○		○
フロンティア機械システム特論 IV		○		○
フロンティア機械システム特論 V		○		○
フロンティア機械システム特論 VI		○		○
機械システム工学特別実習		○	○	○

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	全ての科学技術の根幹をなす物理学分野の基礎知識を修得するとともに倫理観を身につける。
観点(B)	物理学に関する専門的な知識を身につけ、多様かつ複雑な工学的な課題に対して、客観的なデータに基づき、論理的に推論を進めて結論を導くための能力を身につける。
観点(C)	未知の課題に対して、物理学的手法を用いて、解決方法を考案し、その具体的方法を自ら企画設計・遂行し、研究を引率するリーダーシップ能力を身につける。既成の枠にとどまらず、多分野を統合発展させ、新しい分野を開拓する能力を身につける。
観点(D)	異なる分野の研究者・技術者と意思の疎通を図るコミュニケーション力を身につける。物理システム工学を展開する際に必要となる国際性を身につける。

博士前期（修士）課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
固体材料物性工学	○	○		
原子分子分光学	○	○		
量子光学	○	○		
超伝導工学	○	○		
ソフトマター物理学	○	○		
応用力学	○	○		
応用電磁気学	○	○		
応用熱統計力学	○	○		
応用量子力学	○	○		
応用物理数学	○	○		
科学特論 I				○
科学特論 I				○
科学特論 I				○
科学特論 II				○
科学特論 II				○
科学特論 II				○
科学特論 III				○
科学特論 III				○
科学特論 III				○
科学特論 IV				○
科学特論 IV				○
科学特論 IV				○
技術マネジメント特論 I			○	
技術革新論			○	
短期インターンシップ			○	
インターンシップ I			○	
学内インターンシップ I			○	
物理システム特別講義 I				○
物理システム特別講義 II				○
物理システム特別講義 III				○
物理システム特別講義 IV				○
物理システム工学セミナー I		○	○	○
物理システム工学セミナー II		○	○	○
物理システム工学特別実験		○	○	
物理システム工学特別研究		○	○	
フロンティア電気電子工学特論 I		○		
フロンティア電気電子工学特論 II		○		
フロンティア電気電子工学特論 III		○		
情報通信工学特論 I		○		
情報通信工学特論 II		○		
都市空間情報学特論 I		○		
都市空間情報学特論 II		○		

博士後期課程（電子情報工学専攻物理応用工学専修）

授業科目	観点			
	A	B	C	D
固体デバイス工学特論	○	○		
量子光電子工学特論	○	○		
半導体物性工学特論	○	○		
磁気物性工学特論	○	○		
電子線応用工学特論	○	○		
物理応用工学講座特別講義 I			○	
物理応用工学講座特別講義 II			○	
物理応用工学講座特別講義 III			○	
科学特論 V				○
科学特論 VI				○
科学特論 VII				○
科学特論 VIII				○
インターンシップ II			○	
学内インターンシップ II			○	
電子情報工学特別セミナー I			○	○
電子情報工学特別セミナー II			○	○
電子情報工学特別セミナー III			○	○
特別研究計画			○	
特別教育研修			○	
技術マネジメント特論 II			○	
工学府特別講義（国際コミュニケーション I）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーション II）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーション III）				○
研究マネジメント特論			○	
科学日本語特論				○
科学英語特論 I				○
科学英語特論 II				○
科学英語特論 III				○
グランドプロポーザル特論		○		
海外研修教育				○

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	電気電子工学発展に寄与するための応用理論および知識を修得する。
観点(B)	先端的な電気電子工学技術が実社会においてどのように活用されているか理解する。
観点(C)	自ら計画を立て研究を行い考察・解析・解決出来る能力を身につける。
観点(D)	①国際的な先端電気電子技術に貢献できるだけのコミュニケーション能力および議論能力を身につける。 ②自らの研究成果を論理的に記述し、国際社会に対して分かりやすく伝達する能力を身につける。

博士前期（修士）課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
光電子機能デバイス工学特論	○			
量子機能デバイス工学特論 I	○			
半導体薄膜工学特論	○			
信号処理特論	○			
パワーエレクトロニクス特論	○			
集積回路設計特論	○			
通信工学特論 I	○			
光エレクトロニクス特論	○			
情報入出力システム工学特論	○			
電磁波応用工学特論 I	○			
磁性工学特論	○			
環境エネルギー工学特論 I	○			
半導体ナノ構造作製技術特論	○			
半導体ナノテクノロジー講座特別講義 I	○			
科学特論 I				○
科学特論 I				○
科学特論 I				○
科学特論 II				○
科学特論 II				○
科学特論 II				○
科学特論 III				○
科学特論 III				○
科学特論 III				○
科学特論 IV				○
科学特論 IV				○
科学特論 IV				○
技術マネジメント特論 I			○	○
技術革新論			○	○
短期インターンシップ			○	
インターンシップ I			○	
学内インターンシップ I			○	
電気電子工学セミナー I		○	○	○
電気電子工学セミナー II		○	○	○
電気電子工学特別実験		○	○	○
電気電子工学特別研究		○	○	○
電気電子工学実習		○	○	○
フロンティア電気電子工学特論 I		○	○	○
フロンティア電気電子工学特論 II		○	○	○
フロンティア電気電子工学特論 III		○	○	○
情報通信工学特論 I		○	○	○
情報通信工学特論 II		○	○	○
都市空間情報学特論 I		○	○	○
都市空間情報学特論 II		○	○	○
電気電子工学専攻特別講義 I		○	○	○
電気電子工学専攻特別講義 II		○	○	○
電気電子工学専攻特別講義 III		○	○	○

博士後期課程（電子情報工学専攻電子応用工学専修）

授業科目	観点			
	A	B	C	D
半導体機能集積工学特論	○			
ナノデバイス工学特論	○			
量子機能デバイス工学特論 II	○			
電子機能素子工学特論	○			
動画像処理特論	○			
高次元画像解析特論	○			
新エネルギー工学特論	○			
計測制御工学特論	○			
通信工学特論 II	○			
システムフォトリニクス特論	○			
電磁波応用工学特論 II	○			
電子応用工学講座特別講義 II	○			
環境エネルギー工学特論 II	○			
環境エネルギー工学講座特別講義 II	○			
半導体ナノ構造デバイス特論	○			
半導体ナノテクノロジー講座特別講義 II	○			
インターンシップ II			○	
学内インターンシップ II			○	
グランドプロボザール特論		○		
電子情報工学特別講義 II		○		
電子情報工学特別セミナー I		○	○	○
電子情報工学特別セミナー II		○	○	○
電子情報工学特別セミナー III		○	○	○
特別研究計画		○	○	○
科学特論 V				○
科学特論 VI				○
科学特論 VII				○
科学特論 VIII				○
技術マネジメント特論 II			○	
工学府特別授業（国際コミュニケーション I）				○
工学府特別授業（国際コミュニケーション II）				○
工学府特別授業（国際コミュニケーション III）				○
研究マネジメント特論			○	
科学日本語特論				○
科学英語特論 I				○
科学英語特論 II				○
科学英語特論 III				○
電気電子工学フロンティア講義 IV	○			○
海外研修教育				○

ディプロマ・ポリシー	
観点(A)	コンピュータ科学・コンピュータ工学の基礎理論に基づき、情報技術のエキスパートとして必要な高度専門知識を獲得する。
観点(B)	高度な専門知識に基づき独自のシステムを考案する発想力を身につける。
観点(C)	システムを構築し動作させる設計能力・実装能力さらに、結果を分析し適切に対処する問題解決能力を身につける。
観点(D)	国や専門分野の垣根を越えて様々な人たちと協働する高度専門技術者として必要な、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につける。

博士前期（修士）課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
ソフトウェアアーキテクチャ特論	○			
並列処理・ネットワーク特論	○			
ビジュアルコンピューティング特論	○			
応用数学特論	○			
知能機械デザイン学特論	○			
システム評価設計工学特論	○			
3次元ビジュアルインタフェース特論	○			
人工知能特論	○			
ユビキタスコンピューティング特論	○			
ネットワークデザイン特論	○			
映像情報学特論	○			
情報セキュリティ特論	○			
情報工学特別講義Ⅰ	○			
情報工学特別講義Ⅱ	○			
科学特論Ⅰ				○
科学特論Ⅱ				○
科学特論Ⅲ				○
科学特論Ⅳ				○
技術マネジメント特論Ⅰ			○	
技術革新論				○
短期インターンシップ			○	
インターンシップⅠ			○	
学内インターンシップⅠ			○	
情報工学特別実験			○	
情報工学セミナーⅠ		○		○
情報工学セミナーⅡ		○		○
情報工学特別研究			○	
情報工学実習			○	
情報工学輪講Ⅰ		○		
情報工学輪講Ⅱ		○		
情報工学輪講Ⅲ		○		
情報工学輪講Ⅳ		○		
情報通信工学特論Ⅰ		○		
フロンティア電気電子工学特論Ⅰ		○		
バイオメディカルエレクトロニクス特論Ⅰ		○		
バイオメディカルエレクトロニクス特論Ⅱ		○		
都市空間情報学特論Ⅰ		○		
都市空間情報学特論Ⅱ		○		

博士後期課程(電子情報工学専攻知能・情報工学専修)

授業科目	観点			
	A	B	C	D
知覚システム特論	○			
アルゴリズム解析特論	○			
知的ロボット工学特論	○			
マルチメディアネットワーク特論	○			
仮想環境創造工学特論	○			
ヒューマンインタフェース特論	○			
並列処理特論	○			
サイバネティックシステム特論	○			
計算機システム特論	○			
ディベンダブルコンピューティング特論	○			
電子情報工学特別講義Ⅰ	○			
電子情報工学特別講義Ⅱ	○			
知能情報工学講座特別講義Ⅰ	○			
知能情報工学講座特別講義Ⅱ	○			
電子情報工学特別セミナーⅠ		○		○
電子情報工学特別セミナーⅡ		○		○
電子情報工学特別セミナーⅢ		○		○
グラントプロポーザル特論		○		
都市空間情報学特論Ⅲ		○		
都市空間情報学特論Ⅳ		○		
特別計画研究			○	
特別教育研修			○	
電子情報工学特別実習			○	
研究マネジメント特論			○	
技術マネジメント特論Ⅱ			○	
インターンシップⅡ			○	
学内インターンシップⅡ			○	
科学特論Ⅴ				○
科学特論Ⅵ				○
科学特論Ⅶ				○
科学特論Ⅷ				○
科学英語特論Ⅰ				○
科学英語特論Ⅱ				○
工学府特別講義（国際コミュニケーションⅠ）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーションⅡ）				○
工学府特別講義（国際コミュニケーションⅢ）				○
科学日本語特論				○
海外研修教育				○

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	技術経営修士の学位を有するものとして相応しい産業技術開発に関する基礎知識と倫理観を備えること。
観点(B)	各産業分野の専門性に精通した上での技術経営ができる知識を身につけること。
観点(C)	産業技術開発において競争力のある技術イノベーションを推進する能力を身につけること。
観点(D)	研究成果や開発提案などを的確に伝えるコミュニケーション能力、および国際的に活躍するために世界に向けた発信を行うのに必要なレベルの語学力を身につけていること。

専門職学位課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
技術経営概論	○			
技術リスク概論	○			
会計学概論	○			
原価計算入門	○			
企業倫理	○			
技術企業経営概論	○			
マーケティング概論	○			
工業技術標準概論	○			
産業技術安全学	○			
技術者倫理（専門職）	○			
リサーチ・アドミニストレーション概論	○			
知的財産マネジメント	○			
技術企業経営戦略論	○			
知的財産概論	○			
戦略的ビジネスプラン	○			
工業標準化戦略論		○		●
生命産業知財戦略論		○		
環境・材料産業知財戦略論		○		
先端機械産業知財戦略論		○		
情報処理産業知財戦略論		○		
研究プロジェクトマネジメント		○		
研究組織マネジメント		○		
研究・開発力調査分析		○		
機械産業技術論		○		
先端機械技術開発論		○		
先端情報システム構築論		○		
高度情報・通信技術開発論		○		
生命分子産業技術論		○		
生命システム産業論		○		
先端材料開発論		○		
環境技術プロジェクトマネジメント		○		
グラントプロポーザル概論	○			
産業応用特論	○			
産業技術実践研究Ⅰ		●	○	
産業技術実践研究Ⅱ		●	○	
ケーススタディ			○	
プレゼンテーション実習Ⅰ				○
プレゼンテーション実習Ⅱ				○
プレゼンテーション実習Ⅲ				○
プレゼンテーション実習Ⅳ				○
インターンシップ			○	
学内インターンシップⅠ		●	○	
研究・開発プランニングⅠ		○	●	
研究・開発プランニングⅡ		○	●	
フィールドスタディ				○
グラントプロポーザル実習				○
ケーススタディ			○	

●と○がある場合は、●が主たる関与であることを示す

ディプロマ・ポリシー

観点(A)	普遍的かつ実践的学識、およびそれらを基盤とする国際感覚と倫理観を身につける。
観点(B)	国際社会の現場で広範に適用できる実践的な基礎理論と技法を身につける。
観点(C)	政治・経済、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康等の領域において、自らが主に専門とする分野においては高度で専門的な知見と研究力を身につける。自らの専門分野を越えて専門の異なる人材と協働してイノベーションを創出するために、異文化・他分野の背景や価値観を理解し、社会環境に対応できる適用力と多様な見解を調整できる合意形成力を身につける。
観点(D)	国際通用性のある論理的思考力と機能的伝達力を身につける。

博士後期課程

授業科目	観点			
	A	B	C	D
サステナビリティ研究基礎A	●			○
サステナビリティ研究基礎B	●			○
協働分野セミナー I		○	○	
協働分野セミナー II		○	○	
協働分野セミナー III		○	○	
協働分野セミナー IV		○	○	
協働分野セミナー V		○	○	
協働分野セミナー VI		○	○	
サステナビリティ研究先端演習 I				○
サステナビリティ研究先端演習 II				○
サステナビリティ研究先端演習 III				○
サステナビリティ研究先端演習 IV				○
学外実践実習	○			●
学内実践実習	○			●

●と○がある場合は、●が主たる関与であることを示す